

## 2004 東北アジア平和宣言文

21 世紀東北アジア時代が到来した！

20 世紀、葛藤と分裂と反目が繰り返された東北アジアはいまや和合と共生と統合の世紀を迎えている。冷戦とそれによる分断、帝国主義的侵略とそれに抵抗する民族主義の中で、東北アジア各国の人々の関係は、これまでの一世紀の間、疎遠であった。特に国民国家形成とそれによる国民意識の高揚は、各国内部で相互に反目的な民族主義をもたらした。

しかしながら、この 10 年間の東北アジアの変化は肯定的にとらえるべきものであった。世界的冷戦の解体による各国関係の回復と相互訪問の進展、人間の移住と定住による交流拡大は東北アジアの国民間の相互理解を促進してきた。その反面、20 世紀の遺産がいまなお残っている否定的面も見せている。

そのために 21 世紀のグローバル化時代に国境を越えて、人間中心の東北アジアの平和が必要となっているのである。これに対して東北アジア地域のコリアンがネットワークを通じて東北アジアの平和を実現する実践的作業をはじめている。こうした作業は各地域の否の遺産を精算し、東北アジア共同体と平和力量を積み重ねるためにコリアンたちの多様な実践と連帯が試みられている。

ロシアでは韓露首脳会談の結果、エネルギーと交通の事案が東北アジア協力の重要な要素として登場している。特に高麗人移住 140 周年行事を韓露両国の政府の協力で盛大に執り行った。いまやロシア極東地域は多民族多文化共生構造という転換期を迎えている。

一方、中国の持続的経済発展は東北アジア協力を増大させる要因であるといえる。しかし「東北工程」のような歴史歪曲は深刻に憂慮される。しかし韓国が政府、学会、市民団体が一体となって抗議した結果、中国政府もこの問題を政治的イシューにしないことを約束したことは両国間の対等・平等を示す事例として教訓的であるといえる。今後、東北アジアの平和と発展のために中国が経済の発展に見合う地域の平和への貢献が求められるであろう。

日本は拉致問題で停滞している朝日国交正常化を達成し、東北アジアの発展に寄与すべきである。その意味で 2002 年朝日共同声明において「東北アジア地域の平和と安定のためにも協力する」と明記し、日本も徐々に東アジア共同体志向を強めていることは注目すべきである。

しかしその反面、21 世紀を迎えて強まる歴史歪曲の動きや、過去の植民地支配が未清算のまま、靖国神社参拝問題など右傾化を強めつつある日本の姿はコリアンのみならず東北アジアのすべての人々に憂慮を与えている。

今年 11 月に実施される米国大統領選挙において誰が大統領になろうとも、北の核問

題を、対話を通じて平和的に解決する努力を継続すべきである。また朝鮮民主主義人民共和国も先の朝日共同声明において表明したように、東北アジアにおける地域協力を実践し、多者間協議にも積極的な姿勢で臨むべきであろう。

しかし、南北関係においては2000年南北共同宣言以来、人的往来の飛躍的増加、経済交流の活発化、文化・スポーツ交流の活性化など、南北関係は総体的に進展を見せている。また南北共同で開発が進められている現在造成中の開城工業団地の本格稼働や、鉄道・道路の連結が実現すれば、南北関係は飛躍的に発展するであろう。そしてそれ自体が東北アジア地域の平和と安定に大きく寄与するものとなる。

現在、ロシア極東では3万のコリアンが生活しており、日本にも100万の同胞たちが暮らしており、中国には200万のコリアンが少数民族のひとつとして生活している。そして各国のコリアンは植民地、分断、冷戦のもとで常に抑圧を受けてきた。

そうした意味で、東北アジアの平和はコリアンの存立の条件であり根拠であるということは歴史的にも証明されており、そのためにも東北アジア市民としての役割を果たしていく必要がある。

このことは東北アジアのコリアンネットワークの形成と連帯を通じて実現することができるのであり、そして国家主義を超えて、なによりも人権と民主主義を基礎とする平和市民の国際的連帯によって東北アジア平和共同体が達成できるのである。